

平成26年度 城星学園小学校自己評価

事業計画目標 ※ 重点目標	評価の観点	評価項目	内 容	A	B	C	D	評価所見	改善点	
※ 創立者 ドン・ボスコの心で教育しよう ドン・ボスコの教育法に関する本を読み深め、その実践に努める。 ドン・ボスコの研修や夏の黙想会の課題に取り組み、話し合い等によって、実践に生かしていく。	ミッション スクールの 使命	建学の精神	建学の精神を教職員が理解し、それに生きようと研修を深めている。	○				昨年以上によく浸透してきた。また、創立者生涯200周年の節目にあたり、さらに彼の精神を全教職員が理解し、教育活動に生かしていくとしている。	カトリックミッション校としての精神・使命を常に意識しながら、更に保護者や児童への啓蒙と情報提供に努めていかなければならない。	
		教育方針(目標)	目指す児童像である「光の子」という全人教育は 教育活動の基盤となり、取り組んでいる。	○				あらゆる機会に目指す児童像を意識しながら、実践に当たっている。		
		教育共同体	サレジオのアイデンティティと予防教育法の精神を維持するため研鑽を積んでいる。	○				予防教育法に則り、問題を未然に防ぐ環境づくりを心がけてきた。		
・アシステンツァ(いつもどこでも子どもと共に)の励行強化 ・集団生活の秩序を保つため、規範意識を高めるよう教師全員が共通意識をもって指導していく。	教育課程	教育内容	カトリック学校として、あらゆる教育活動を通じて、その使命の自覚と共に実践している。				○	より豊かな宗教心を育むよう努力している。	創立者(ドン・ボスコ)研修、宗教研修、夏季一泊研修を通しての学びから、さらに具体的な取り組みとなるよう心がけている。	
			子どもに同伴(アシステンツァ)しながら、個性を大切に、互いに認められ、励まされるよう導いている。	○				日々多忙な中であっても、児童との同伴に最大限努めている。		
			教育課程は、指導要領を遵守しながらも創意と工夫ある独自の授業が展開されている。	○				城星独自の教科指導を目指して研究を積み重ねている。全教員が、信念をもって実践している。		
			道徳に代わる宗教科及び宗教科道徳で、宗教心、規範意識を高め、浸透させようとしている。				○	宗教科や研修部のみでの取り組みにとどまらず、全教員が意識的に取り組んできた。		
・全体研究授業(年8回)での授業力向上を図る。国語科においては、今まで積み上げてきた本校の指導法などが壊れないように、新任にも継承していくため研修の場を設ける(研修計画に盛り込む)。 ・新任教師には直接的、間接的にそれぞれの教師が個々に関わり、本学の建学の精神や教授力を伝えていくことができるようにする。	資質向上	校内研修	創立者の理念を理解し、実践するための研修は継続的に行われている。				○	ドン・ボスコ研修、一泊黙想会を年間通して計画的に実施し、成果が上がってきた。	多忙な中であっても、教育力・教師力の向上のため、継続してさらに研修・研鑽に努めていきたい。	
			授業力向上のための授業研究、実践は絶えず行われている。	○				日々の教材研究を欠かさず行い、研究授業・個人研修、等積極的・計画的に実施することができた。		
			教員相互の連携と理解のもとに日常的に実践交流がなされ、研鑽の場がある。	○				教員間の教育に関する情報交換は、随時行われている。職員室でのコミュニケーションを大切にできた。		
・何よりも、創立者 ドン・ボスコの生き方を、教師は絶えず自己の行動と照らし合わせ、日々子どもに向き合い、教育の寛容と厳しさを身につけるよう、さらに研鑽を深める。 ・専門機関の協力を要請し、児童の安全確保に努め、自ら危険から実を守る知識を養う。 ・快適な学校生活を営めるよう、常に清潔さを保つ。また、必要な設備の整備に努める。	環境	宗教的環境	カトリック精神を伝えるための雰囲気は常に配慮され、環境が保持されている。				○	ご祭、宗教的な掲示物、みこことば、行事、等による雰囲気作りを努めている。	さらに、カトリックミッションスクールらしさをアピールしていきたい。	
		安全管理	危機管理マニュアル、警察・消防との連携・訓練等学校の安全対策が充分とられている。				○	警察・消防との連携は、よくなされている。また、全校種での避難訓練も実施している。(警察による各種講習を推進してきた)	危機管理マニュアルを共通理解し、確認し合っていく必要がある。	
		環境	児童が快適に健やかに過ごすための施設、設備また清潔感のある環境を保っている。				○	常に校内美化に努め、環境を保持して清潔さを保っている。	現状を踏まえた上で、教育効果の有効性を重視し施設・設備などの環境整備に努めたい。	
・各校種の教員、児童、生徒の交流を図り相互理解を深める。 ※交換研究授業、合同クラブ活動などの実施 ・細やかな指導、学級通信等を通して、保護者からの信頼度の向上に努める。 ・校長(教頭)による、1年生の母親教室(年6回)及び、ドン・ボスコ勉強会(A.B.Cの3グループ構成で年5回)を通して、保護者との教育観の一体化を図る。	運営	校種間の連携	校種間(幼・中高)の連携を図り、各部で話し合い協力している。				○	研究授業の交換会、児童に対する出前授業等、前向きに取り組んできた。	なかなか向うが見られない課題である。校種ごとに、予定や時程が異なるので、合同でできる工夫と先を見据えた計画が必要である。	
		校務分掌	それぞれの職務や担当する役割に責任をもって実践している。				○		分掌業務はもちろん、業務外のことに對しても積極的に関わり、協力的体制もとれている。	
		保護者の理解	保護者に対して本学の方針や活動を理解してもらうための手立てや方策をとっている。				○	学校報、学年・学級通信、懇談会、等のできる限り活用してきた。	専科教員も積極的に関わっていくよう要請した。	
※・学年団のチーム力を強固にし、多くの目で子どもを見ることによって、個々にあった適切な指導と、客観的な評価を行う。	学習指導	指導評価	実力、能力に応じ、児童それぞれの学力の向上に努めている。				○	補習・個人指導による底上げに努めた。JATとの連携も工夫をした。	十分な時間を捻出し、確保できるようにしたい。	
			適切な評価方法をもって、学力評定ができていく。				○	相対評価(本校採用)の良さを最大限に生かした評定となるよう工夫している。また、高学年での教科担任制導入に伴い、絶対評価を取り入れた。		
※・私たちが目指す全人教育、特に善悪を伴う判断と行動に対して、的確な指導と、保護者への正しい啓蒙を図ると共に協力を呼び掛ける。	生活指導	生活指導	課題や問題を有している児童に対して、共通の理解をもつための情報を共有し、解決にあたっている。				○	どんな些細なことで、全教員が把握し、共有しながら問題解決に臨んでいる。問題行動を起こす児童の指導こそ、本学園に任せられた使命として取り組んでいるが、今後も引き続き努めたい。規範意識の薄れに伴い生活指導(躾)は、引き続き本校の大きな課題である。特に、集団の中で重要な「そろえる」ことを目標に掲げ定着を図ろうとしている。今後も、継続指導が必要である。		
			本学の児童の規範意識、行動は社会一般実態と比較して概ね良好である。				○			

(回答記号) A: 充分達成できている
B: 概ね達成できている

C: あまり達成できていない
D: ほとんど達成できていない

平成26年度 城星学園小学校 学校関係者評価

学校関係者評価(自己評価の結果に対する評価)

事業計画目標 ※重点目標	評価の観点	評価項目	内容	自己評価	学校関係者評価	今後に求める取り組みやご提言	全体に関するご意見等
※ 創立者 ドン・ボスコの心で教育しよう ・ドン・ボスコの教育法に関する本を読み深め、その実践に努める。 ・ドン・ボスコの研修や夏の黙想会の課題に取り組み、話し合い等によって、実践に生かしていく。	ミッションスクールの使命	建学の精神	建学の精神を教職員が理解し、それに生きようと研修を深めている。	A	A		・カトリックミッションの基本である他者を思いやる精神のつくりがまだまだ不十分と感じられます。児童一人ひとりの精神教育の更なる充実を期待します。 ・すばらしい学校だと思います。先生も向上心が強く高いと思います。子ども達も成長の過程に於いて、宗教を学べるという事は、子どもにとって軸ができ、判断能力や精神的に強くなると思います。また保護者には充分過ぎるほどの配慮を頂き感謝しておりますが、配慮が過剰過ぎると感じる部分もあります。
		教育方針(目標)	目指す児童像である「光の子」という全人間教育は 教育活動の基盤となり、取り組んでいる。	A	A		
		教育共同体	サレジオ的アイデンティティと予防教育法の精神を維持するため研鑽を積んでいる。	A	A		
・アシステンツァ(いつもどこでも子どもと共に)の励行強化 ・集団生活の秩序を保つため、規範意識を高めるよう教師全員が共通意識をもって指導していく。	教育課程	教育内容	カトリック学校として、あらゆる教育活動を通じて、その使命の自覚と共に実践している。	B	A		・卒業時に、子ども達がこの学校に通って良かったと思える学校であって欲しいです。 ・ドンボスコの建学の精神としてミッションスクールの特色を打ち出している事に関しては、とても評価できる学校だと思います。子ども達が安全に安心して、そして平等に教育を受ける事が最優先で、その次に各学校の特色があると思います。建学の精神を大切にされ、学校運営に生かして頂きたいと思います。 ・警備員の方々の対応が、差があると感じます。マニュアルやルールに則り、極力対応に違いが出ないようにして頂きたいと思います。
			子どもに同伴(アシステンツァ)しながら、個性を大切に、互いに認められ、励まされるよう導いている。	A	A		
			教育課程は、指導要領を遵守しながらも創意と工夫ある独自の授業が展開されている。	A	A		
			道徳に代わる宗教科及び宗教科道徳で、宗教心、規範意識を高め、浸透させようとしている。	B	A		
・全体研究授業(年8回)での授業力向上を図る。国語科においては、今まで積み上げてきた本校の指導法などが廃れないように、新任にも継承していくため研修の場を設ける(研修計画に盛り込む)。 ・新任教師には直接的、間接的にそれぞれの教師が個々に関わり、本学の建学の精神や教授力を伝えていくことができるようにする。	資質向上	校内研修	創立者の理念を理解し、実践するための研修は継続的に行われている。	A	A	・学力向上のために、先生方が努力してくださっているのが感じられ、嬉しく思います。	
			授業力向上のための授業研究、実践は絶えず行われている。	A	A		
			教員相互の連携と理解のもとに日常的に実践交流がなされ、研鑽の場がある。	A	A		
・何よりも、創立者 ドン・ボスコの生き方を、教師は絶えず自己の行動と照らし合わせ、日々子どもに向き合い、教育の寛容と厳しさを身につけるよう、さらに研鑽を深める。 ・専門機関の協力を要請し、児童の安全確保に努め、自ら危険から実を守る知識を養う。 ・快適な学校生活を営めるよう、常に清潔さを保つ。また、必要な設備の整備に努める。	環境	宗教的環境	カトリック精神を伝えるための雰囲気は常に配慮され、環境が保持されている。	A	A		
		安全管理	危機管理マニュアル、警察・消防との連携・訓練等学校の安全対策が充分とられている。	B	B		
		環境	児童が快適に健やかに過ごすための施設、設備また清潔感のある環境を保っている。	B	A		
・各校種の教員、児童、生徒の交流を図り相互理解を深める。 ※交換研究授業、合同クラブ活動などの実施 ・細やかな指導、学級通信等を通して、保護者からの信頼度の向上に努める。 ・校長(教頭)による、1年生の母親教室(年6回)及び、ドン・ボスコ勉強会(A,B,Cの3グループ構成で年5回)を通して、保護者との教育観の一体化を図る。	運営	校種間の連携	校種間(幼・中高)の連携を図り、各部で話し合い協力している。	B	B	・保護者に対する連絡を用紙だけでなく、データ(メール)などで送るのがあれば良いと思います。 ・台風などの緊急時のマモルメの内容が幼小中高と違うので、統一して頂きたい。	
		校務分掌	それぞれの職務や担当する役割に責任をもって実践している。	B	A		
		保護者の理解	保護者に対して本学の方針や活動を理解してもらうための手立てや方策をとっている。	B	B		
※・学年団のチーム力を強固にし、多くの目で子どもを見ることによって、個々にあった適切な指導と、客観的な評価を行う。	学習指導	指導評価	実力、能力に応じ、児童それぞれの学力の向上に努めている。	B	B	・週3回の放課後指導や、自学ノートの積極的な取り組みなど、さらに今後の積極的な取り組みに期待します。	
			適切な評価方法をもって、学力評定ができている。	B	B		
※・私たちが目指す全人間教育、特に善悪を伴う判断と行動に対して、的確な指導と、保護者への正しい啓蒙を図ると共に協力を呼び掛ける。	生活指導	生活指導	課題や問題を有している児童に対して、共通の理解をもつための情報を共有し、解決にあたっている。	B	B	・問題を有する子どもの保護者の姿勢の改善ができるよう指導を望みます。 ・問題の指摘だけでなく、解決へのステップやアプローチの提案などを望みます。	
			本学の児童の規範意識、行動は社会一般実態と比較して概ね良好である。	B	B		